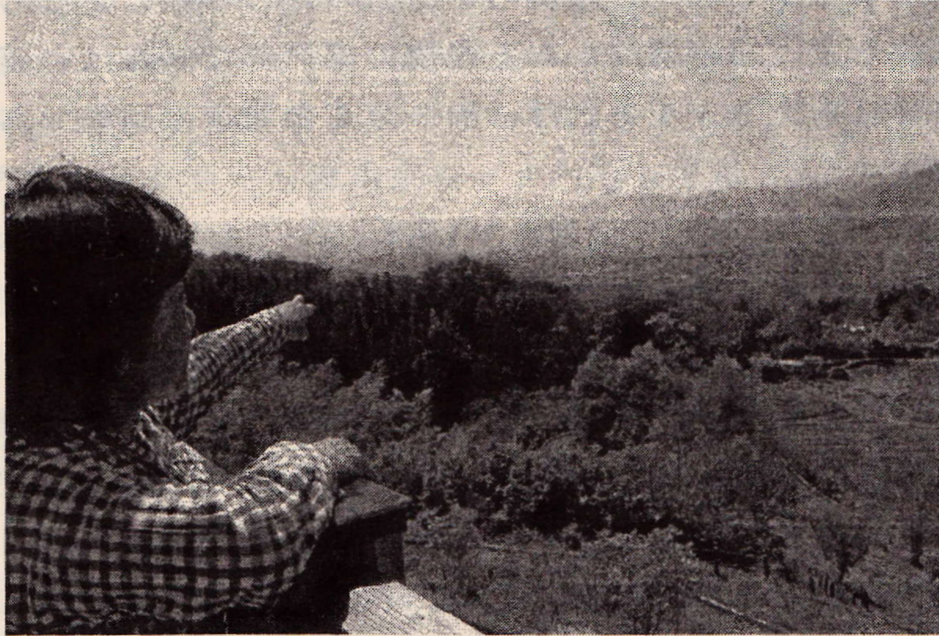


伊那谷スケッチ

～自然と文化を巡るふるさと再発見～ 第四十六回



豊丘村福島「てっぺん公園」で
残土置き場候補地を示すMさん
2020.5.2

前島久美

4月5日、東京研修から帰宅。実家から2週間の自宅待機を要請された。念のため、ヨガの定期クラスも休みにして、体調の変化を見る。天気の良い日は山を散歩したり畑や田んぼの作業をしながら、いつになくのんびりと過ごした。特に体調に変化はみられないのでヨガ教室を開始しようとしたら緊急事態宣言が全国に広がりスタジオが閉鎖。実家の旅館も4月中頃から休業しているので換金業から完全に閉め出されてしまった。仕様がなくて「あつてよかった！春の山菜便」というのを企画して、山を駆け巡っては山菜を仕入れそれを送って多少の賃金を得た。田んぼがそろそろ忙しくなるがまだ暫く地元の登山を楽しんだり、野草を調達する生活が続きそうだ。

この時期、「カキドウシ」というシソ科の野草が非常に美味しく毎食何かにトッピングする。どこにでも見られる雑草だ。私は主にサラダに刻んで入れるのだが、肉料理とも相性がいい。今朝はネギ坊主を低温で炒め、その上にカキドウシを刻んで乗せる。双方とも風味があるので調味料はいらない。その美味しさにひとり唸る。山菜便で発送した先のレシピで気になったのは「塩辛の上にカキドウシ」と言うのが新しい組み合わせだった。スーパーに行かなくても食材には困らない。季節ごとの刺激は事欠かない。山暮らして良かったなあと思う瞬間。

【地元探訪リニア沿線を巡る】

オオシカ谷～大西山～豊丘村野田平(のたのひら)
オオシカ谷大河原の集落からは大きく崩壊し

た特徴的な山が視界に入る。標高1800m足らずの伊那山地、大西山だ。

5月1日は本来であれば農業の神様「佐倉様」のお祭りの日だが、今年は祭事中止。いつもは、地元有志で伊那山地の中腹の尾根に祀られた祠を掃除してこちんまりと直会をする。古老に聞くとかつては、このお祭りに豊丘村側から参加した人たちもいて賑やかなお祭りだったという。今日はその山道を辿り、豊丘側へ下る。

大西山までの登山道があり、ペナントがあるのでほぼ迷う事がないが、伊那山地の特徴として尾根の等高線がゆるい。まるで尾根自体が複数の窪地地形の集合体なので、慣れない人は少し戸惑うだろう。大西山のピークの手前で地図とコンパスで確認しながら豊丘村側を下る。ここ数年でかなり稜線付近は間伐がされ倒木が行く手を阻む。「もうちょっと気を使って間伐してほしいな」と思いながら

倒木を越えて暫く下っていたが、よく見ると谷の北側にはちゃんと道がついているではないか。森林整備の関係で今でも使われている様子。その後はあっけなく快適な山道を下っていく。200mほど下ると、小川が形成されせせらぎを聞きながらその脇の道を進む。急傾斜は変わらないが大鹿側より、のんびりとした山道の印象。途中にあった造林小屋は倒壊していた。昭和41年の表示。山を抜けるとリニア中央新幹線の送電線工事現場の出現で、げんなり。

更に下ると「北山」という廃村の集落にでる。かつては牧畜をやっていたのだろう。サイロや牧草地が広がっている。集落の下部の入口には神社もあって、手製の鳥居がいい雰囲気だ。思わず鳥居を潜り参拝。高台には赤松の根っこ石垣の組み合わせでうまい事祠の土台が作られていたのが印象的だった。ここから美しい溪谷を目下にしながらか進む。中部電力の巡視路になっていて、木製の電柱がまだ残っている。ミツバツツジのピンクや淡い新緑、その木立から見え隠れする石灰岩の川底と清流がとてもいい。下り着いたのは、野田平(のたのひら)キャンプ場。かつての分校だ。感染症予防のため今季はまだオープンしていな

い。校舎の裏側には手つかずのコゴミが群生していて、本日の夕食に加えるのは言うまでもない。

【地元探訪リニア沿線を巡る2日目】

豊丘村野田平～坂島～佐原

今日は、野田平を出発して旧街道を坂島の集落を経由、市街地へと抜ける。かつては、子ども達が通ってきた道なのだろう。時期になるとキノコの収穫で山に入る人もいるのかよく踏みならされた快適な街道を2キロ弱ほど歩くと今は無人の集落「坂島」にたどり着く。ここはリニア工事の豊丘側の坑口予定地。資材を運ぶ為のヘリポートが出来ている。なんと、くちおしい…そこから、峠道に入る。まるで水戸黄門のシーンに出て来そうな峠らしい峠。興奮覚めやらないまま「かくさん」気分を下ると、ここでもリニアの関連工事に遭遇。送電線鉄塔のために木を伐採し、谷を埋めている。高速の生コン車やダンプとすれ違う。一方で下りきった佐原の集落はとてものどかだった。

村民体育館で、在住のMさんと合流。福島のてっぺん公園まで案内してもらい絶景伊那谷ビューを堪能した。一方で、そこからの風景のすぐ左の谷をリニアの残土で埋めるという忌まわしい情報も。集落を下りながら送電鉄塔の予定地等も示してもらいながら、リニア情報盛り沢山で伊那大島駅まで送迎していただいた。

今や、伊那谷を歩けばリニア工事にあたる。リニア工事に応じた土地改変が地域の可能性を潰しているようで哀しい。思わぬウイルスの蔓延で生活のペースが変わった今、もう一度「リニア計画」の必要性を問いたい。(20.05.07記)

★「南アルプスの未来にリニアはいらない」★ いもむし編を制作しました

製作費は、会費やカンパから充てさせていただきました。会員の皆様には1部謹呈。カラフルないもむし達をお楽しみください♪